



ごあいさつ

高知大学における男女共同参画
学長 櫻井 克年



高知大学では、平成24年4月に設置された安全・安心機構のもとに、男女共同参画推進室をおき、様々な活動を展開してきました。私はその当時、総務担当理事として、これらの事業に取り組んできました。

幸いにも、平成24年度から3年間、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、男女各1名の若いスタッフを得て、女性研究者の活動を支援すると同時に、全学的な男女共同参画の推進に取り組んできたところです。

男女共同参画推進室の愛称は、「しあわせぶんとん」です。堅苦しいキャッチコピーではなく、まさに、みんなでしあわせをぶんとんしたい!そのための重要な活動の一つとして男女共同参画がある、私はこの考え方が好きです。

私は30年以上前から、東南アジアでの農林業・自然環境・土壌などの調査を行ってきました。30年前には、いわゆる都会以外の地域に住む人々にとって、コミュニティーの中にある土壌を利用して生計を立てていくしかない、という状況の中で、老若男女を問わず農林業などを営んできました。現在では、日本の山地集落における過疎化と同じ流れの中、若者は都会の学校に行き、その費用を稼ぐために男性は故郷を離れ都会へ出稼ぎに行くという構図が広がっています。ただし、日本と大きく違うところは、女性の社会進出がずいぶん古くから進んでいる国が多数あるということです。職場の管理職にもたくさんの女性が用いられています。

高知大学でも、もっともっと、女性に輝いてほしいと思います。ただし、この頃は、男性の方が元気がないという印象を持つことも増えているので、男性にも頑張ってもらいたいです。男女共同参画というのは、男性も女性も頑張っていて、そんな頑張る教職員・学生を、大学が進んでバックアップをする、それがあべき姿なのかな、と考えています。





女性後継者テニュアトラック教員インタビュー 海洋コア総合研究センター 奥村知世 特任助教



現在の仕事に就きたいと思ったきっかけは？

幼い頃から考えること・学ぶことが好きで、教師になるのが夢でした。中高の理科教師になることを目指して大学に進学したのですが、研究の魅力にハマり、研究者の道を志すようになりました。大学院の博士課程に進学する際や、学位取得後なかなか就職が決まらなかった際には研究をやめようかなと思った時もありますが、現在の仕事につくまで頑張ってきてよかったなと心から思っています。

研究・仕事の魅力は何ですか？

私の専門の地球科学の研究では、時空間スケールの大きい自然現象の謎を解く点に魅力を感じています。野外調査では、自然の美しさや厳しさを肌で感じながら、探偵のようにデータを集め、解釈していくプロセスも非常に楽しいです。また、世界にはいろんな問題が山積みですが、文化・国籍・年齢・性別を超えた世界中の同志と”科学”という人類の共同作業に取り組めることに喜びを感じます。

現在の仕事と生活の様子

昨年10月に着任し、少しずつ実験室環境を整えているところです。私の所属する海洋コア総合研究センターは、最新分析機器が揃った日本でも有数の研究機関なので、この環境を存分に活かしながら研究を進めていきたいと思っています。着任に伴い、単身赴任生活をしていますが、夫が高知に遊びに来た際、高知のいろんな観光スポットと一緒に巡るのが週末の楽しみになっています。

近い将来の夢、少し先の夢

将来、自分の指導した学生さんが「大学で学んでよかったな」と思ってもらえるような指導や研究室運営をするのが夢です。また、なかなか難しいかもしれませんが、家族一緒に住むことも夢です。家族をはじめ先輩や同僚に支えられながらこれまで研究者生活を続けて来ることができたので、これからは、自分も誰かを支えたり、勇気づけたり、見本となったりできるような人間になっていきたいと思っています。



(写真1: アフリカジブチでの湖堆積物の調査時の写真)



(写真2: 桂浜で夫にとってもらった写真)

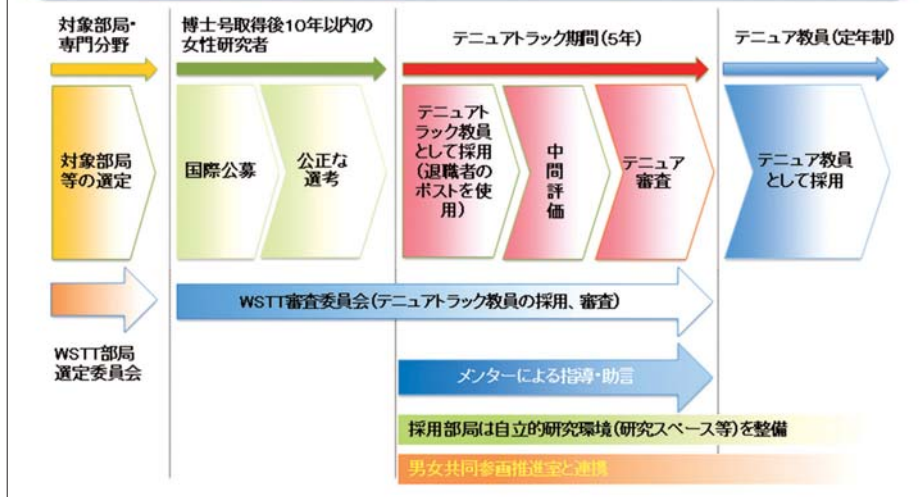




男女共同参画推進室は女性後継者テニュアトラック制をサポートしています

女性後継者テニュアトラック制 (Woman Successor Tenure Track: WSTT)

- 研究力のみならず、教育力の向上も対象としたテニュアトラック制度を全学に普及・定着
- 博士号取得後10年以内の**若手女性研究者**を、退職者の所属する部局の後継候補者として、国際公募による公正な選考の下、テニュアトラック教員として採用し、独立した研究スペースなどの自立的な研究環境を提供するとともに、スタートアップ経費および研究費を支援
- 男女共同参画推進室と連携を図り、出産、子育て、介護等のライフイベントや研究と生活との調和(ワーク・ライフ・バランス)に配慮して、活動を支援



平成29年度に国際公募により高知大学女性後継者テニュアトラック教員が採用されました。WSTT教員が産休や育児休業を取得した場合には、中間評価を6か月、あるいは1年間延期することができます。

研究推進課の取組に協力して、男女共同参画推進室は女性研究者テニュアトラック教員のワーク・ライフ・バランスを支援しています。



男女共同参画支援ステーション授乳・搾乳・休憩スペースをリニューアルしました

- 利用対象者 学内の女性教職員・学生で、妊娠中・育児中の方
 - ご利用時間 9:00~17:00(月~金)
 - ご利用場所 朝倉キャンパス 総合研究棟3階
- ※ご利用前にはご連絡ください。空きを確認して予約を受け付けます。
- TEL: 088-888-8022 E-Mail:sankaku@kochi-u.ac.jp



「仕事とプライベートのハーモニー2018」を発行しました

育児・介護休業法の改正に伴い、高知大学の育児・介護休暇制度のご案内を改訂しました。生活と仕事の両立に役立ててください。



家事代行サービスの法人優待のお知らせ

高知大学は、平成29年9月に家事代行・私費介護・お子さん送迎サービスの提供企業(ニチイライフ)と、法人優待契約を締結しました。ニチイライフの家事・育児・自費介護サービスをご利用の際に、法人登録IDを告げると、高知大学職員(常勤・非常勤)および職員の第二親等まで、5%割引で利用することができます。詳細は教職員用グループウェア掲示板「福利厚生」No.686をご覧ください。



ロールモデル講演会「Let's just try」高知大学医学部環境医学講座の森温子特任研究員



男女共同参画推進室は専門職として活躍する女性を招き、ロールモデル講演会を開催しています。平成29年6月12日には、高知大学医学部環境医学講座の森温子特任研究員を講師として招き、「Let's just try」と題する講演会を朝倉キャンパスで開催しました。

森特任研究員はJICAの青年海外協力隊員として南太平洋のフィジー共和国に派遣され、中央省庁で国民の栄養改善プログラムの策定に従事した経験と、異文化のなかで働くことで多様な視点で物事を捉えることが出来るようになった学びについて講演しました。森特任研究員はどんどん異文化に触れてほしいと学生たちにエールを贈りました。参加者の感想には、ボランティアというと体力勝負な印象を持っていたが、専門的な資格を活かしたボランティアがあることに驚いた。また、綿密な計画に沿って、メンバーが話し合いながら着実に事業を進めて行く様子はまさに仕事であって、スキルアップに役立つ経験だと思ったなど、国際ボランティアをキャリア形成の視点から捉え直す学生が多く見られました。講演会には共通教育の「国際ボランティア概論」の受講生も加わり、学生及び大学関係者ほか187名が参加しました。

ロールモデル講演会 公益社団法人青年海外協力協会の^{ほりえ}塹江まほ理事 「考えながら走ったあの時—ガーナ、子育て、県庁職員からキャリアを振り返る」

平成29年6月26日には、公益社団法人青年海外協力協会の塹江(ほりえ)まほ理事を招き、ロールモデル講演会を開催しました。講演会には学生及び大学関係者ほか192名が参加しました。



塹江理事は昭和53年に高知大学農学部を卒業してすぐに青年海外協力隊員としてガーナ共和国に派遣され、地方の中等教育学校で理数科教師として活動。帰国後、結婚・出産を経て、子育てしながら受験した高知県庁の職員採用試験に合格。農業専門職として働き、平成28年高知県立農業大学の教員を最後に定年退職しました。その後もガーナとの草の根交流を続けていきました。塹江理事は「皆さんと同じ高知大学の学生だったときを振り返ると、人生あつという間だったと感じる。これだと思ふことがあれば、どんどんチャレンジしてほしい」と話しました。学生の感想には、「テレビやインターネットから知ることができる知識と実際に生活してみても得られる知識の質が大きく違うことが改めて分かった。どんどん経験を積んで知識を学んでいきたい」など、現場で学ぶことに意欲を示すコメントが多く寄せられました。

女性活躍推進セミナー

「無意識のうちに私たちが持っている ジェンダーバイアスに気づこう」



平成29年11月13日に女性活躍推進セミナーを開催し、41人が参加しました。講師には沖縄科学技術大学院大学のマチ・ディールワース副学長(男女共同参画・人事担当)を迎えました。セミナーの目的は、無意識のうちに私たちが持っているジェンダーバイアスを意識することで、採用や人事評価の際に偏見による悪影響を縮減することです。

欧米の殆どの大学では教員の採用と昇進査定に関わる人にアンコンシャスバイアス(無意識の偏見)の研修が義務づけられています。アンコンシャスバイアスを取り除く独自の研修プログラムを開始した沖縄科学技術大学院大学の取組を学びました。

潜在的バイアス(Unconscious Bias)は、人間なら誰でも持っているもので、自覚でないものです。潜在的バイアスのパターンとしては、先入観に基づいたステレオタイプスレットや特権意識に基づいたグループ化、些細な侮辱などの例が挙げられました。私たちは、疲れている時や判断を急いでいる時などに潜在的バイアスの影響を受けやすくなります。潜在的バイアスの影響を最小限にするためには、評価基準を明確なものにして、妥当な業績についての情報を十分に得ることが必要です。

オープンキャンパスで「男女共同参画でかがやく☆未来コーナー」を実施しました

平成29年8月5日、6日のオープンキャンパスで、男女共同参画推進室は「男女共同参画でかがやく☆未来コーナー」を実施しました。「男女共同参画って聞いたことありますか？」高校生たちは「知らない」、「聞いたことある」と答えて、興味深そうに共通教育科目「男女共同参画社会を考える」の授業紹介を見たり、女性研究者紹介を眺めていました。



「四国5国立大学における男女共同参画に係る事業の共同実施に関する協定書」を締結しました

平成29年4月1日付で四国5国立大学は、連携して男女共同参画を推進することを目的として男女共同参画に係る事業の共同実施に関する協定書を締結しました。この協定に基づき、徳島大学・鳴門教育大学・愛媛大学・香川大学と連携して男女共同参画に係る事業を実施し、協力してメンター研修や連携シンポジウムを開催しました。



四国5大学連携メンター研修2017を開催しました



平成29年11月27日に徳島大学AWAサポートセンター主催により、「女性のキャリア形成におけるメンタリング～メンタリング効果とスキルを知る～」研修を開催しました。徳島大学で開催された研修が四国4国立大学TV会議システムによって配信されました。研修の目的は、研究生活において抱える諸問題の解決を諮り、研究力の向上や就業継続・復職等、女性のキャリア形成を推進することです。公益財団法人21世紀職業財団 客員講師の荻野令子氏による講演がありました。

中国四国男女共同参画シンポジウムに参加しました

平成29年11月17日に広島大学で開催された第9回中国四国男女共同参画シンポジウム「平和で持続可能な社会づくりにおける男女共同参画」に参加しました。堂本暁子氏(男女共同参画と災害・復興ネットワーク代表)から「女性の参画と持続可能な社会：東日本大震災に学ぶ」講演がありました。パネルディスカッションでは、中国四国地区の大学・行政・企業が、「女性の参画と持続可能な社会づくりに向けて」意見交換を行いました。高知大学は取組内容の紹介ポスターを掲示しました。



(高知大学の取組を紹介する宮井千恵理事)

四国地域連携による女性の学び支援のための研究協議会



平成30年2月2～3日には徳島大学およびグランドエクスティブ鳴門ザ・ロッジで四国地域連携による女性の学び支援のための研究協議会が開催され、高知大学からは5名の研究者が参加して研究のプレゼンテーションを行いました。「四国国立大学女性研究者ロールモデル対談」で

は、高知大学から人文社会科学部の関良子准教授が提題し、育児と研究を両立するための工夫や、子連れでの海外出張などの経験が語られました。四国の国立大学の様々な分野の女性研究者が交流することで、国際学会での研究発表や仕事のチャレンジなど、刺激を受けることのできた交流会でした。



共通教育科目「男女共同参画社会を考える」を実施しました

男女共同参画推進室は、平成24年度に開講した共通教育科目「男女共同参画社会を考える」と共同で、男女共同参画社会に関する学生教育を行っています。授業のテーマは、「男女がともに生き生きする社会」「新しい時代の暮らし方と働き方」を考えることで、131名の学生が履修しました。

男女共同参画について、憲法やジェンダー論、家族論、哲学など多様な学問分野から学生は学ぶことができました。さらに、こうち男女共同参画センター ソーレと共同で「キャリア形成セミナー」を開催して、高知で働くロールモデルの話聞いて学生が自分自身のキャリアについて考えました。また高知市健康増進課の協力により、「認知症サポーター養成講座」を開催して受講者にはサポーターの証となるオレンジリングが渡されました。

3日間の集中講義で、毎年盛りだくさんの内容の授業を展開しています。

9月28日

- 1限 オリエンテーションと男女共同参画の基本 中川香代・人文社会科学部
- 2限 大学のなかの男女共同参画 廣瀬淳一・安全・安心機構
- 3限 高齢社会における男女共同参画 ー認知症サポーター養成講座ー
佐藤政子氏・認知症の人と家族の会高知県支部世話人代表、大川愛氏・高知市健康増進課
- 4限 男女共同参画とジェンダーの考え方いろいろ 武藤整司・人文社会科学部
- 5限 ジェンダーの視点から考える男女共同参画 池谷江理子氏・高知短期大学

9月29日

- 1限 生殖医療と男女共同参画 小島優子・安全・安心機構
- 2限 家族から見た男女共同参画 森田美佐・教育学部
- 3限 デートDVについて考える こうち男女共同参画センター「ソーレ」
- 4限 育児から見た男女共同参画 岩佐和幸・人文社会科学部
- 5限 憲法で学ぶ男女共同参画 藤本富一・教育学部



9月30日

- 1限 哲学で学ぶ男女共同参画 小島優子・安全・安心機構
- 2限 キャリア形成セミナー「男女共同参画とキャリア」 石倉洋子氏・一橋大学名誉教授
- 3限 キャリア形成セミナー
ロールモデル：島田希保氏・善楽寺住職
馬醫光明氏・廣瀬製紙株式会社取締役
森安美抄氏・株式会社あすらぼ代表取締役
- 4限 キャリア形成セミナー
会：石倉洋子氏・一橋大学名誉教授
石倉洋子氏・一橋大学名誉教授
- 5限 グループディスカッション 廣瀬淳一・安全・安心機構



第8回ワーク・ライフ・バランス講座「認知症サポーター養成講座」を実施しました

平成29年9月28日に認知症サポーター養成講座を開催しました。認知症は誰でも起こりうる脳の病気で、65歳以上では1割ほどが認知症を患っているとされます。認知症サポーター制度は、厚生労働省が平成16年度に導入しました。この講座では、認知症とは何か、認知症の方へどのように対応すればよいのかについて学びました。受講者には、サポーターの証となる「オレンジリング」が渡されました。

認知症サポーター養成講座を通して、介護というケア労働における男女共同参画を参加者は学ぶことができました。参加者アンケートからは、認知症サポーターとして学んだことを認知症の方への対応に積極的に活かしていきたい様子が分かりました。



デートDVセミナー

平成29年9月29日(金)第3限はこうち男女共同参画センター「ソーレ」からお二人の職員(池添さん、岡田さん)をお招きし、「デートDVについて考える」を開催しました。

池添さんは、「10代、20代の若い男女間で起こる暴力(デートDV)が深刻化しています。被害者にも、加害者にもならないために、DV・デートDVへの認識を深める予防教育が必要」と訴えました。また、岡田さんは、イギリスの警察が2015年に公開した「性行為の同意を紅茶に置き換えてみて」という動画を用いて、デートDVの課題について学生たちに問いかけました。恋人同士の間には、そこで起こっていることが暴力と気づきにくい傾向があるようです。講義では、周りの人がデートDVに気づいたら、または本人から相談があったら、まずは話を聴いてあげること。そして、自分たちだけで解決しようと思わず、専門に支援する人につなぐことが必要との話がありました。グループワークに参加した学生たちは、「これってデートDVになるのかな?」「デートDVだと思っていなかった」などと真剣に話し合っていました。アンケートのコメントからも、学生が非常に身近な問題として高い関心があることがわかりました。



男女共同参画のキャリアデザイン



平成29年9月30日第2限から第4限にかけて、一橋大学名誉教授の石倉洋子先生をお招きして、キャリア形成セミナー「これからの自分をデザインする」を開催しました。この企画はこうち男女共同参画センター「ソーレ」の協力によって実現しました。

初め、石倉先生から「広い世界に羽ばたこう、未来を創るのは」と題する講演を聞き、第3限には地域で活躍する人生の諸先輩として株式会社あすらぼの森安みさ代表取締役、廣瀬製紙株式会社の馬醫光明取締役、四国八十八カ所霊場第30番札所善楽寺の島田希保住職(山主)からそれぞれ経験に基づく話をうかがいました。学生は人生の諸先輩の話に真剣に耳を傾けていました。

第4、5限目のグループワークでは、男女共同参画推進室の廣瀬准教授がファシリテータとして加わり、話し合いの成果を全体会で共有しました。集中講義「男女共同参画社会を考える」の最終日であったため、学生は今回の集中講義で学んだ講義内容を共通の土台として話し合いが盛り上がったようです。授業のアンケート用紙にもびっしりと感想が書かれていて、非常に満足度の高いセミナーであったことがわかりました。



研究支援員制度のご紹介

男女共同参画推進室では、研究活動支援を必要とする教員および研究員のために、研究支援員を配置しています。対象となる研究者は以下の①～③のいずれかです。

- ①妊娠中の者(配偶者の妊娠を含む)
- ②小学校6年生までの子を養育する者(※男性は(a)配偶者が大学又は独立行政法人に所属する研究者である者、あるいは(b)単身で育児している場合に限る)
- ③地方自治体から要介護認定を受けている配偶者、子、父母又は配偶者の父母を介護する者(男女不問)

研究支援員利用教員による受賞

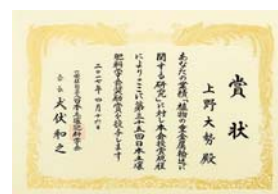
農林海洋科学部の島村智子准教授が日本食品保蔵科学会奨励賞を受賞(平成29年6月)

島村智子准教授は、研究支援員制度を開始した平成24年度から研究支援員制度を利用して育児と研究の両立に役立てています。今回、受賞対象となった研究業績は、「酸化防止剤の力価評価法の検証とその応用に関する食品化学的研究」です。



農林海洋科学部の上野大勢准教授が第35回日本土壌肥料学会奨励賞を受賞(平成29年9月)

上野大勢准教授は、他県の大学研究者である配偶者と協力して育児をするために、研究支援員制度を利用しています。今回、受賞対象となった研究業績は、「植物の重金属輸送に関する研究」です。



平成29年度 研究支援員利用教員と研究支援員の共同による業績

共著論文

- (1) 島村智子・山本憲司・大塚祐季・林未季・柏木丈弘・受田浩之, カツオ節をはじめとする各種節類抽出液に含まれる環状ジペプチドの定量, 日本食品保蔵科学会誌, 43(5), 227-233, 2017
- (2) Yuma Takemoto, Yuta Tsunemitsu, Miho Fujii-Kashino, Namiki Mitani-Ueno, Naoki Yamaji, Jian Feng Ma, Shin-ichiro Kato, Kozo Iwasaki, Daisei Ueno. 2017. The tonoplast-localized transporter MTP8.2 contributes to manganese detoxification in the shoots and roots of *Oryza sativa* L. Plant & Cell Physiology, 58, 1573-1582.
- (3) Yuta Tsunemitsu, Naoki Yamaji, Jian Feng Ma, Shin-ichiro Kato, Kozo Iwasaki, Daisei Ueno. 2018. Rice reduces Mn uptake in response to Mn stress. Plant Signaling & Behavior. 13, e1422466.
- (4) 松本 健司, 渡邊 武士, 鶴藺 克敏, 寺内 亨, 西山 信雄, 江波 拓磨, 常光 優太, 岩崎 貢三, 上野 大勢. 2018. 微生物型人工シデロフォアの植物用鉄供給剤としての利用. アグリバイオ. 2, 72-74.
- (5) 小曾湧司・是永かな子, フィンランドの通常小学校における段階的支援の実際『高知大学学術研究報告』66, 2017.
- (6) 小曾湧司・是永かな子, フィンランドにおける段階的支援と特別学校の役割—Onerva kouluのセンター的機能と学校機能に注目して—『高知大学教育学部研究報告』78, 2018.

研究支援員との共同による学会発表

- (1) 島村智子, 野村凜, 市田彩香, 大塚祐季, 岡村健志, 武井秀樹, 柏木丈弘, 受田浩之, 高知県四万十町産ショウガに含まれる抗酸化成分とその保蔵中の変化, 日本食品保蔵科学会第66回大会, 2017/6/24-26, 高知
- (2) Yuuki Otsuka, Tomoko Shimamura, Rin Nomura, Kenji Okamura, Hideki Takei, Takehiro Kashiwagi, Hiroyuki Ukeda, Elucidation of antioxidant in ginger cultivated in Shimanto Town, Japan and its change during storage, 8th International Conference on Nutrition and Physical Activity, 2017/12/10-13, Thailand.
- (3) 大塚祐季, 山本憲司, 有田光, 柏木丈弘, 島村智子, 受田浩之, 碁石茶製造工程における環状ジペプチド生成機構の解明, 日本農芸化学会2018年度大会, 2018/3/15-18, 名古屋
- (4) 角田成美, 山口晴生, 安藤友里, 足立真佐雄, 外丸裕司(2017)海産微小珪藻Chaetoceros tenuissimusの簡易凍結保存法. 2017年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 滋賀県立大学, 彦根.
- (5) Yamaguchi H, Sumida N, Gonda T, Ishii K-I, Adachi M. (2017) Resting strategy of the bloom-forming diatom Chaetoceros tenuissimus. The Japanese Society for Fisheries Science 85th Anniversary-Commemorative International Symposium, Tokyo University of Marine Science and Technology, Tokyo, Japan.

〒780-8520 高知市曙町二丁目5番1号 高知大学男女共同参画推進室
TEL:088-888-8022 FAX:088-888-8023 E-MAIL: sankaku@kochi-u.ac.jp

